

第3回 鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 報告書

開催月日	令和4年1月17日(月) 午後7時00分～午後8時45分
開催場所	鳴子公民館 研修室1・2
出席者	●鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 委員17名 【PTA】 鳴子小学校:鈴木顕, 及川加菜恵 川渡小学校:松田早苗, 高橋鈴穂 鬼首小学校:大場雅和, 大沼明博^{欠席} 鳴子中学校:高橋慶行, 吉田真裕子 【地域づくり委員会】 鳴子地域づくり委員会:早坂利成, 遊佐直行 東鳴子地域づくり委員会:高橋日出夫, 阿部富士子 中山地区コミュニティ連絡協議会:戸部直美, 伊藤沙織 川渡地域づくり委員会:遊佐洋子, 濱田澄子 鬼首地域づくり委員会:高橋幹夫, 大沼幸男 ●事務局 7名 教育長:熊野充利, 教育部長:宮川亨 教育部参事兼教育総務課長:宮野学, 課長補佐:久本裕 主幹兼係長:鈴木健, 主査:佐藤章, 主事:平山泰揮^{欠席} 学校教育専門指導員:玉水透
概要	1 開 会 2 挨拶 教育長 熊野充利 3 資料説明 以下の内容について別紙資料により鈴木係長が説明。 ①小学校のみで統合する場合 ②小学校・中学校で学校する場合 ③鳴子温泉地域学校統合準備委員会について 4 意見交換(○:委員, ⇒:事務局) ◇座長(熊野教育長) まず始めに事務局の説明内容について, 質問があればお願いしたい。 ◇高橋委員(東鳴子地域づくり委員会) ○資料3の児童生徒の推計について, 中学生は令和15年まで推計が出されているが, その状況から1年生と3年生が複式になるという可能性は

あるのか。

⇒中学校は2学年で8人以下というのが複式の対象となるため、当面は複式にはならないと考えている。

○人数が少なくなることによって、中学校の統合というのは想定されないのか。

⇒将来的には検討が必要となる可能性もあるが、現段階では考えていない。

○仮に中学校の統合を検討することになった時に、小中で統合してしまったら、小学校部分が残ることになるのではないのか。

⇒どのような枠組みで中学校統合を考えるかによるが、現時点では中学校の統合は考えていない。

○小中一貫で今後、永久的に存続されない可能性があるということになるのではないのか。

⇒そういうことになる。

○中学校の統合を考える時期は未定ということでよいのか。

⇒お見込みのとおり。

◇座長(熊野教育長)

全国の小中一貫で統合したケースの状況をみると、小規模であっても地域に学校を残していくという考えの方が多く捉えている。小中一貫という枠組みで統合すれば、児童生徒数が減少しても、小中一貫で学校を残すという可能性が高い。

◇遊佐委員(鳴子地域づくり委員会)

○小中で統合する場合については、概算の工事費が記載されているが、小学校のみで統合する場合の工事費については記載が無い。川渡小学校は直しているとはいうものの、トイレの水洗化であったり、廊下であったり、体育館であったり傷みが激しいところがある。確かに耐震化はされているが、そういった部分の整備というのは考えていないのか。

⇒前段として、教育委員会としては小中一貫での統合を進めたいと考えている。前回、小学校のみで統合する場合ということでご意見をいただき、バスの出入りの兼ね合い等から利用校舎を川渡小学校とする想定となった。川渡小学校を利用する場合、現在の川渡小学校の児童数が80数名で、仮に令和7年統合とすると推計値で97名となり、クラス数には変動がないということで資料を作成している。お話のあった経年劣化等の修繕については、通常の学校管理経費での対応として考えており、統合校舎となることを理由とした整備は考えていない。

○現状の管理でいくということか。

⇒そのように考えている。

○大崎市の教育予算はどのくらいか。国からきている交付金の額。大崎市はそのお金を使っていないと感じている。直しながらいくということで大丈夫なのか。

⇒年度によっての変動はあるが、現状として教育予算の規模は70億～80億となっている。その中に先ほど申し上げた修繕等にかかる学校管理経費が含まれている。経費として多くの割合を占めているのが、教育支援員やスクールサポートスタッフといった人件費。現状として川渡小学校については、昨年度から今年度にかけて体育館の屋根を修繕しており、額としては各年度で300万～400万程度となっている。トイレの改修については、大規模改修と併せたタイミングとして考えている。理由としては、国の整備費をいただきながら対応したいというところ。ただし、他校との兼ね合いから順番があり、20年経過で直ちに実施ということにはならない。

○了解した。

◇高橋委員(鳴子中学校 PTA)

○児童館、学童について、担当課と協議・調整となっているが、もっと具体的な説明をお願いしたい。

⇒児童館及び学童の担当課は子育て支援課となる。川渡児童館で他地域の子どもたちを預かれるのかどうか(受け入れるための施設の基準もある)など協議が必要となる。仮に川渡児童館で利用者すべてを受け入れられないとなると、鳴子小学校の学童を利用させていただくことになる。こういった部分の調整が必要になるということで資料に記載している。

小中での統合になった場合、前回の会議でも話が出たが、鳴子中学校から児童館までの距離があるため、スクールバスの対象外となる児童もスクールバスを利用できるようにできないかという部分についても、スクールバスの担当課である学校教育課との協議となる。

また、鳴子中学校のミーティングルーム(体育館内)やランチルームを学童にできないかというような部分についても協議が必要になる。

⇒こういった詳細な部分については準備委員会が立ち上がってから取り組んでいくということで、現時点ではこういった事項について後々協議が必要になるということまでということでご理解いただきたい。

○川渡の幼稚園がなくなるということで、保護者や地域の方には事前に説明をしていることと思うが、私はかなり後に聞いたので驚いたということもあるので、準備委員会でお話いただくのもよいとは思いますが、もっと早い段階で子育て支援課等との協議を進めてもよいのではないかと。

⇒既に相談している部分はある。鳴子中学校に統合した場合、敷地内に放課後児童クラブを建てられないかということを相談しており、費用が7000万円程度必要になること、児童が減少していることから、設置は難し

いとの回答を得ている。そのため、代替案としてミーティングルームやランチルームの活用を考えていたところであり、現段階ではここまでと考えていた。

◇鈴木委員(鳴子小学校 PTA)

○整備費について、小中の統合の場合として8200万円という記載があるが、小中一貫にすることで整備費がつくものなのか。児童数の推移をみると飲み込まなければならないのかなと思う部分もあるが、小学校のみ統合の場合の整備費が少ないように思う。交通の利便的なものもあると思うが、建物の新旧でいえば鳴子小学校の方が川渡小学校よりも新しい。鳴子小学校であればもう少し予算をつけてもらえるのではないか。その選択肢があってもよいのではないか、また検討できないかと思う。

⇒鳴子小学校を活用するという案については、スクールバスの通行が困難ということで、小学校のみの統合とした場合の想定を川渡小学校とした経緯がある。小中とした場合の整備費については、鳴子中学校の現状では児童の受け入れができないため、それを可能な状態にするための整備費であり、国の補助等は一切ない。川渡小学校については、現状のままで児童の受け入れが可能なため、整備費については記載していない。

○鳴子小学校であれば8000万円かからずに受け入れの整備ができるのではないかと、また、観光バスが通行している現状からスクールバスも大丈夫なのではないかという思いで発言した。いただいた説明について了解した。

◇座長(熊野教育長)

資料説明に対する質疑としてここまでお話をいただいた。ここからは、小学校のみの統合とするか、小中で義務教育学校として統合するかについて、ご意見をいただきたいと思う。皆さんよろしいですか。

(委員了解)

それでは委員お一人お一人から意見をいただきたいと思う。よろしくお願いします。

◇鈴木委員(鳴子小学校 PTA)

○児童生徒数の推移をみると正直、ぐうの音も出ないところ。6年生のリーダーシップを醸成するような取り組みをしていただけるならば、小中での統合をみとめざるを得ないと思う。

◇及川委員(鳴子小学校 PTA)

○統合自体は仕方がないことと思っている。当初、小中一貫がよいのではと思っていたが、最終的に保護者という立場からすると小学校と中学校は分けていただいた方がよいと考えている。場所については、比較的新しく、通行上、事故や不便もないことから鳴子小学校の活用についても検討してほしい。

◇早坂委員(鳴子地域づくり委員会)

○鳴子小学校の場合は、子どもたちが体力不足。そこにはスクールバスの問題があり、スクールバスの子どもたちは体力がなく、尚且つ鳴子の子どもたちの体力がないということを感じている。スクールバスをもっと遠いところに停めてもいいのではと思っている。そうすればスクールバスが通行困難としていた鳴子小学校も検討の対象になるのではないかと思う。岩出山もスクールバスが混雑しているのであればもっと遠くに止めれば、子どもたちの体力もつくのになあと思っていた。特に玉造地区の子どもたちの体力がすごく落ちている。

川渡小学校の場合は、かなり古い建物なので、修繕しながらといっても限界があるのではないかと思う。

長い目で見たときに、鳴子中学校にもっていくということになるのかなと思う。子どもたちが減っていった、中学校も岩出山と一緒になるのかなど考えると、何年後に一緒になるのかなと考え、どうなのかと考えていた。20年後、30年後の中学校の統合という可能性も視野に答えを出さなければと考えていた。

鳴子中学校については、もう少し予算をつけて、現状、ソフトボールも野球も部活がないので、グラウンドにテニスコートを移設し、テニスコートのスペースに低学年用の遊具を設置するのがよいと思う。西風が強いが。

結論としては、現時点での判断は難しい。

◇遊佐委員(鳴子地域づくり委員会)

○令和7年を目途に統合ということだが、その地区に子どもがいて、保護者がいて、地域が望めば児童が1人であっても学校は存続してほしいというのが本当の願い。ただ、令和7年にはという話があったので、移住・定住・Uターン等がない限りはということもあるが、それならば木の温もりのある素敵な学校を作っていただきたい。そういう学校を作ることによって、鳴子に戻ろうかなという方も出てくるのではないかな。場所はどことは言わない。それが願い。

◇高橋委員(東鳴子地域づくり委員会)

○結論からいえば小中一貫校を作ってほしいと思っている。というのは、町内会や地域を見ても、子どもたちが遊んでいる姿が見えない。それはなぜか考えてみると、外で遊ぶよりも家の中で遊んだほうが親も安心だし、子どもも汚れないから安心してゲームをしているという環境が多いようだ。それと併せて兄弟が少ない家庭が多いため、上下関係の中での遊び方がわからない子どもが結構いる。そういう部分を小中一貫校にして、学校いる間だけでも、上下関係を築けるようにするのも教育なのではないかと考えているので、そういった学校運営をしてほしい。

◇阿部委員(東鳴子地域づくり委員会)

○小中一貫で考えていた。児童生徒の推移をみると本当に悲しくなるような状況。人間関係の固定化など、統合するとどこの学校でもありえるよ

うな問題もあるが、今後の準備委員会でそれが解消されるような話し合いがなされればいいなと思う。また、鳴子中学校を活用することを考えると、小学生の遊び場がない。事務局より監視カメラの話があったが、やはり生の目で子どもたちの遊ぶ様子を見ることができるといい環境にしてほしいと思う。

◇戸部委員(中山地区コミュニティ連絡協議会)

○迷っている。結論は出せない。先ほど鳴子小学校はスクールバスが入れないという話があったが、現在スクールバスで中山から通わせているが、登れなくて困ったという話はバス会社からも学校からも報告を受けていない。小学校のみというのであれば、現在のバス会社の話も聞いて、冬場の運行がどこまで厳しいのか確認し、検討してから川渡にという話をしてほしい。正直、中山や鬼首からすると川渡は遠い。子どもにとって負担になると思う。岩出山地域の子どもの減少や中学校の統合の可能性、学区変更の可能性など先々のことを考えると、状況も変わってくると思うのでどうするのかよいか結論が出せない。もう少し考えたい。

◇伊藤委員(中山地区コミュニティ連絡協議会)

○当初は川渡小学校に統合するなら小中での統合がよいと考えていたが、中山から川渡は遠いので中間地点の鳴子小学校だと親としては助かる。スクールバスは鳴子駅で降ろすということはいかないのか。そこから歩きでも鳴子小学校にいく階段がある。通学路としても危険箇所は少なく安全だと思う。こういった可能性を検討してもよいのではないかなと思う。鳴子小学校で考えていただけたらうれしいなという思い。

◇松田委員(川渡小学校 PTA)

○前回の会議までは小中一貫で考えていた。今回の資料で小中一貫の場合はデメリットへの対応策が記載されているが、小学校のみの場合についてはデメリットへの対応策が記載されていない。また、監視カメラを設置してまでというのはいかがなものか。以前ナイフで同級生にケガをさせたという事案があったと思うが、そういったトラブルを画面越しにカメラ映像を確認する方法で発見できるのか、早急に対応できるのかといった部分に疑問がある。小学校のみにするか小中一貫とするか結論は出せないが、小中一貫にするのであれば、やはり生の目で見守れる環境が必要だと思う。

◇高橋委員(川渡小学校 PTA)

○義務教育学校にさせていただいた方がよいと思う。鳴中の学力が低下していると何年も前から聞いている。義務教育学校は先生を多く配置できるということなので、英語などを専門の先生に教えていただくようにすれば学力も向上すると思う。他地域の中学校を受験する方もいると思うので、義務教育学校で一生懸命勉強できる環境を整えていただければと思う。

◇遊佐委員(川渡地域づくり委員会)

○資料を読んだ時点では小中一貫の義務教育学校かなと思ったが、今日、鳴子小学校にという意見を聞いて、そういう考えもあるんだなと思い、非常に揺れている。資料を見ると義務教育学校に移行するという方へ誘導されているように感じる。本心では小学校のみの統合がよいと思っていたが、資料をみてやっぱり義務教育学校なのかなと思い、鳴子小学校とする意見を聞いて、それもアリだなと気持ちが動いた。今の状況ではどちらという判断ができない。もう少し考えたい。

◇濱田委員(川渡地域づくり委員会)

○児童生徒数の推移というデータが示されている。この現実を考えると、やはり早急に統合すべきと思う。場所については、川渡小学校では余りに老朽化が進んでいる。さらに児童数の推移を考えると小学校のみの統合はありえないと思う。そのうち中学校も統合しなければならないような状況とみている。やはり小中一貫の統合を早くすべきと思う。先ほど先生の生の目で子どもたちを見てほしいという話があったが、この統合を機に職員室をグランド側に移すことも可能ではないかと考える。そういった智恵を出しながらすばらしい学校を目指して作っていくべきだと思う。

◇大場委員(鬼首地域づくり委員会)

○鬼首小学校とすればどちらでもよいという状況。一つだけ言いたいのは、8200万円かけて令和7年に統合して、令和15年にはかなり生徒が減少する。今は大崎市なので、車社会ということもあり市内であればどこでもいいでしょという保護者もいると思う。最近、古川北部で統合があったが、第5小学校に入れたかったという保護者もいたようだが、人数が多すぎていじめにあうという意見が出たようだ。マンモス校でいじめや不登校が心配されているケースもあると考えると、小中一貫にした方がよいのか小学校のみにした方がよいのか、場所がどうこうというよりも、令和15年の先が見えているので、この先のことを考えて、何人携われるのか、ここにいるメンバーが何人残るのかという話にも結び付くのかなと思う。令和15年にどうなるかわからない時点で、中学校の統合もしくは小学校の統合、だったら岩出山がだめなら古川でもいいんですかというような時代も来ると思う。先のことは誰にも分らないが、現段階で言えるのは8200万円かけて、令和15年にはその8200万円が無駄になるのと一緒にではないかということ、その時の保護者は言うと思う。とにかく現段階では一貫校にしろ小学校のみの統合にしろ、どうなっても仕方がないという条件でお願いすると言えませんが、8200万円はきつい話だと思う。

◇大沼委員(鬼首地域づくり委員会)

○皆さんの悩むという気持ちはそのとおりと思う。将来、いわゆる令和14年とか令和15年あたりになると、また同じような問題が起きてくるのではないかなというところはすごく気にかかるところで、児童生徒の数だけを基準にして考えると、8年後、9年後に大規模な広域的な統合を考えなければならないのかが危惧されるのは致し方ないのかなと思うが、あまりにも児童生徒数に執着しすぎるのもどうなのかなと思う。先ほど、

冒頭に教育長も言っていたが、義務教育学校をつくるというのはある意味では地域を守っていくとか将来のことも考えての案ということでお話いただいている。この統合の計画と同時に大崎市では定住促進の方にも力を入れているわけなので、一方では子育て世代を増やしていくというような動きも併せて行っていないと、どうしても対処法だけで終わってしまって、しょうがないの連続で終わってしまうのではないかな。それは自治体としては最もよくない方向へ向かってしまう恐れもあるので、併せた政策も持って進んでほしいと思っている。今この場所でどちらかを選択ということはできない。

◇高橋委員(鬼首地域づくり委員会)

○小学校の統合で考えている。一つひとつの学校がその地域に必要という考えも分かるが、今の児童生徒数の推移、また分校で育った自身の経験から、大勢のところで学習をさせたいという思いを持っている。小学校の統合は大賛成。教育委員会の立場からすれば、当然にして鳴子中学校に空き教室があるので、それを有効に使いたいというのはもっともな話だと思う。ただ地域に住んでいる者として、本当にそれでよいのかどうか、中学校が空いているから小中一貫校で有効に使おうという判断ではダメだと思う。小中一貫校の良さについてはこれまで説明を受けているので理解している。判断するとなれば、中学校に空き教室があるから小中一貫校で統合というのでは判断できない。というのは学校とか施設があるだけでなく、その地域の視点から、別の面から見たときに、これまであったように、例えば川渡であれば幼稚園がある、児童館がある、学童保育がある、それで統合して小中一貫校にして今の鳴子中学校にしましょうという結論があってその後の対応として、子育て支援課等の関係課と協議しますというのでは小中一貫にするのは反対せざるを得ない。今の鳴子中学校に小学校用のプールも作らなければならないのではないかな。8200万円の他にもまだまだ出てくるのではないかな。学童保育を中学校に入れることができるのか。地域づくり、地域の皆さんとの関りをどうするのが見えない段階で、後の手当は準備委員会で検討する、関係課と調整するという話だけでは、中学校を活用した小中一貫がいいのかどうか判断しかねる。川渡小学校に統合して、地域全体の子どもたちの生活、過ごす時間を大事にしたいと思っている。空き教室の有効活用についてはもっともだと思うが、川渡小学校の老朽が著しいのであれば相応の手当をすべきだと思う。もちろん経費もかかると思うが。地域づくりの視点から川渡小学校に統合すべきだと思う。子育て支援課等との話し合いの結果が出ているのであれば話は別だが。実質的に鳴子中学校から川渡児童館まで歩けないと思う。親であれば歩くなと思う。スクールバスを使う等しなければ川渡児童館へは行けないと思う。川渡小学校であれば歩いて行けるメリットがあると思う。

○今の鳴子中学校には用地的な余白はあるのか。プールの設置や学童を設置できるような。

⇒プールについては、担当レベルの案として現在進めている古川西部地区と同様の手法で考えていた。内容はプールを底上げする台を沈めて深さを調整し、かつ深いエリアに転落しないよう防止柵を設置するという

もの。

○あの敷地に新しい建物を建てるのは難しいとみていた。

◇吉田委員(鳴子中学校 PTA)

○皆さんの意見を聞いてますます分からなくなってしまったところはあるが、前回までの話し合いと、今回の資料をいただいた時点では、小中一貫も致し方ないと思っていたが、中学校を活用するには課題が多いと思うし、想定している整備内容では不足するのではないかと思う。子どもたちが休み時間に遊ぶ姿もないのではと思う。昇降口から校庭までが遠い。学童の問題もあると思うので、中学校として迎える分には致し方ないと思うが、課題が多いと思う。

◇高橋委員(鳴子中学校 PTA)

○資料をいただいた時点で学校と協議を行った。小学生が休憩時間に校庭まで遊びに行き、遊ばずに帰ってくるという状況が考えられるのではないかと思う。遊具がどの程度の規模で設置されるかわからないが、そういうことになったらという仮定で話をしたところ、職員駐車場になっているところに遊具を設置すれば全然問題はないのではないかという話もあった。一つひとつ問題を解決していく部分になるのではないか。学童については、一番はやはり児童の安全になるので、誰もいない家に子どもが一人で帰っていくという状況を作らせないためには、やはり学童とういものが必要になるのではないかと思う。それに対する移動手段の確保という部分を準備委員会ができた段階で協議するというよりは、ある程度たたき台を作っていて、お示しいただくと安心感があるのかなと思う。準備委員会になってからお金がないからできませんということにならないようにしてほしい。そういった部分をしっかり検討していただきたい。今日、決まるかなと思っていたら、会議の中で2案から3案になったので、判断は鳴子小学校案もひっくるめてとなるのかなと思う。

◇座長(熊野教育長)

一通りご意見をいただきました。ありがとうございます。皆さんのご意見を大事にしながら進めていきたいと思っている。しかし、全員の意見が一つにまとまるというのは難しいかもしれないが、教育委員会としては今日いただいた意見を参考にして、もう少し具体的なものをお示しするようにしたいと思う。皆様ご協力ありがとうございました。

5 その他

事務局より、時間をいただき、鳴子小学校を活用する案、学童の具体化、子どもの様子を目視できる方策、遊具の設置案等について検討する旨確認した。

6 閉会